

第57回社会福祉セミナー

「ひきこもり」と社会福祉

主催 公益財団法人 鉄道弘済会 後援 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

全国でいわゆる「ひきこもり」状態にある人は、15～39歳で54万人、40～64歳では61万人いると言われている。我が国では従来、「ひきこもり」は主に若年層の問題として考えられ、その支援も就学や就労をゴールとしたものを中心であった。しかし、近年、中高年層の「ひきこもり」がクローズアップされ、これまでの問題のとらえ方や支援のあり方が問い直されつつある。社会福祉の領域においても、生活困窮の課題や「8050」問題、「地域共生社会」づくりの議論とも関連しながら、生きづらさを抱えて生きる「ひきこもる人たち」にどう向き合うかが問われるようになってきている。

社会問題として改めて注目されている「ひきこもり」。なぜ「ひきこもり」は増加し続け、社会問題として浮上してきたのだろうか。そこにはどのような問題が潜み、どのような福祉的支援が必要とされているのだろうか。

本セミナーでは、「ひきこもり」経験者・当事者の声から、「ひきこもり」の現状とその背景にある課題を学ぶとともに、社会的な対応について、また今日求められている福祉的支援の方向性、福祉実践のあるべき姿について昨年からコロナ禍におけるひきこもり支援の現状を踏まえて考える機会としたい。

- 期 日 2021年7月3日(土)・4日(日)
- 定 員 600名(定員になり次第締切)
- 受 講 料 無料
- 申込締切 2021年6月24日(木)
- 開催方法 Zoomウェビナーを使用したオンライン配信

申込方法

- 鉄道弘済会ホームページ
(<https://www.kousaikai.or.jp/>)、
もしくは右のQRコードより
お申込みください。



注意事項

- 受講に必要な機材 (PC、スマートフォン、タブレット等) とインターネット環境をご用意ください。
※動画配信形式のため、多くの通信料がかかります (視聴に伴う通信料等は受講者負担になります)。
※通信環境によっては、動画の乱れが生じる場合があります。あらかじめご了承ください。
- お申込みいただいた方 (申込締切 6月24日 (木)) に、セミナー当日使用するZoomのURLをお送りいたします。当日はそちらのURLよりご参加ください。
※インターネット接続に関する不具合、お問い合わせなどには対応できかねます。あらかじめご了承ください。

- 本法人の許可なく、資料の一部およびすべてを複製、転載、または配布、印刷等し、第三者の利用に供することを禁止いたします。また、配信画面の録画、録音および撮影等は固くお断りいたします。

質問受付等

- 鉄道弘済会ウェブページの質問フォームよりご質問を受け付けます。6月25日 (金) までにお寄せいただいた質問は、事前に各講師へお送りさせていただきます。
※すべての質問にはお答えすることはできません。あらかじめご承知おきください。
- 本セミナー当日にTwitterで「#社会福祉セミナー」をつけ、感想などご投稿いただけますと幸いです。

個人情報の取扱いについて

- 受講お申込みに際してお預かりする個人情報は、次回以降のセミナー開催案内など、本セミナーに関する内容のみに使用いたします。

プログラム 7月3日(土)

9:40	10:00	12:30	13:30	16:00	16:10
開会(主催者)挨拶 諸注意	基調鼎談	昼休憩	講座①	事務連絡等	

(敬称略)

基調鼎談

10:00~12:30

社会福祉は「ひきこもり」とどう向き合うのか

—問題のとらえ方と「支援」の方向性をさぐる—

ジャーナリスト、NPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会 広報担当理事
社会福祉法人豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長
コーディネーター：東京都立大学 准教授

いけ 池 上 正 樹
かつ 勝 べ れい こ
むろ 室 部 た しん 子
の 田 信 いち

昼休憩

12:30~13:30

講座①

13:30~16:00

社会福祉の課題としての「ひきこもり」とその支援方策

—制度・政策的なアプローチから考える—

「ひきこもり」の支援は、その対象を年齢で区切ることができず、対応すべき問題も孤立や貧困、メンタルヘルス、ゴミ屋敷、DVなど様々である。さらに、それらの問題は既存の福祉制度に当てはまらない、あるいは各種制度にまたがることも多い。

厚生労働省は、「ひきこもり」をはじめとした複合的な問題を抱えている家族に対応するため、2021年4月に新しく「重層的支援体制整備事業」を創設し、市町村における包括的な支援体制の構築を進めているが、具体的な体制整備に頭を悩ませている自治体も少なくないのが現状ではないだろうか。

本講座では、「ひきこもり」の支援方策について、支援現場、自治体、政策づくりといった多様なレベルからの報告を受け、方針を踏まえた今後の「ひきこもり支援」の展開や、支援に求められる制度・政策的なアプローチについて考えてみたい。

野洲市市民部 次長

しょう 生 水 裕 美
あん 安 西 慶 たか
かつ 勝 べ れい こ
やま 山 本 耕 平

厚生労働省社会・援護局地域福祉課 課長補佐

コメンテーター：社会福祉法人豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長

コーディネーター：佛教大学 教授、一般社団法人若者協同実践全国フォーラム 共同代表

公益財団法人鉄道弘済会は各種の社会福祉事業を運営しております。

(2021年4月1日現在)

施設別	箇所数
義肢装具製作・リハビリ施設	1
知的障害・自閉症児者施設	9
認可保育所	10
認定こども園	14
児童養護施設	1
社会福祉専門図書室	1
計	36
老人福祉施設(運営協力)	5
認可保育所(//)	1

公益財団法人鉄道弘済会は公益事業の運営を本旨とする財団法人として、1932(昭和7)年に設立されました。

本法人の行う公益事業には、身体障害者福祉、知的障害児・者福祉、児童福祉、高齢者福祉などがあり、これらの事業のための諸施設のほか、福祉資料室を設置・運営しております。

また、視覚障害者用録音図書の製作奉仕者に対する顕彰事業なども行っております。

これらの公益事業に要する費用の不足分は、本法人の収益事業の益金等をもって充当しております。

プログラム 7月4日(日)

9:50	10:00	12:30	13:30	16:00	16:10
諸注意	講座②	昼休憩	講座③	事務連絡等	

講座②

10:00~12:30

これからの「ひきこもり支援」のあり方を考える

— 支援者と経験者・当事者の語りから —

近年、中高年の「ひきこもり」が社会的な注目を集めるなか、そうした人と家族に対する「支援」のあり方をめぐっても、多くの議論がなされるようになってきている。本人を「家（部屋）」から引き出し、就学や就労につながることをゴールとするような「支援」のあり方が見直され、既存の支援メニューにとらわれない、本人の状況に合わせた「伴走型支援」の考えが広がりつつある。

しかし現状では、「伴走型支援」の具体的な内容と方法、その展開プロセスが明確になっているとは言い難い。また、そもそも「支援」という枠組自体が当事者に受け入れられないことも多く、「ひきこもり支援」実践をめぐる議論は、まだその端緒についたばかりと言える。

本講座では先駆的事例における「支援者」と「経験者・当事者」の語りから、今求められている「ひきこもり支援」のあり方について、実践に根ざした議論を深めたい。

NPO法人にいがた若者自立支援ネットワーク・伴走舎 理事兼事務局長

青木洋之

NPO法人にいがた若者自立支援ネットワーク・伴走舎 非常勤、ひきこもり経験者

小出直文

コミュニティハウスひとのま 代表

宮田隼

ひきこもり経験者

ぴんく

コメンテーター：中核地域生活支援センターがじゅまる センター長

朝比奈ミカ

コーディネーター：東京都立大学 准教授

室田信一

昼休憩

12:30~13:30

講座③

13:30~16:00

「ひきこもり」とソーシャルアクション

— 経験者・当事者からの発信と福祉専門職の役割を考える —

我が国では「ひきこもり」は、本人やその家族の問題としてとらえられがちである。しかし、「ひきこもり」は学校や会社、地域社会といった既存の「所属先」になじめない、あるいはそうした「場」や「機会」から排除された結果として生じる問題でもある。

社会福祉が「ひきこもり」の問題と向き合う上では、目の前の本人と家族をどう支援するかということと同時に、社会や地域の構造的な矛盾にいかに関わりかけていくかが問われなければならない。

本講座では、様々な形で社会に向けて発信しているひきこもり経験者や家族の活動に学びながら、ひきこもり問題をめぐるソーシャルアクションのあり方と、そこにおける福祉専門職の役割について考えたい。

笑いのたねプロジェクト 代表、不登校と若者の自立を考える北上地区父母会（竹の子会） 会長

後藤誠子

一般社団法人ひきこもりUX会議 代表理事

林恭子

「ひきこもり新聞」 編集長、ひきこもり経験者

木村ナオヒロ

コメンテーター：ジャーナリスト、NPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会 広報担当理事

池上正樹

コーディネーター：岐阜協立大学 教授、NPO法人まちかどサポートセンター 理事長

山田武司

【基調鼎談】

室田信一 (むろた しんいち)

(東京都立大学人文社会学部准教授)

日本の高等学校卒業後、アメリカに留学し、学部で社会学、大学院でソーシャルワークを学び、その後ニューヨーク市内のセツルメントでコミュニティ・オーガナイザーとして勤務。日本帰国後に同志社大学大学院にて博士号を取得。大阪のNPO法人でコミュニティソーシャルワーカーとして勤務。2012年4月より現職。2014年にNPO法人コミュニティ・オーガナイズング・ジャパンを設立し、副代表理事、代表理事を歴任。

池上正樹 (いけがみ まさき)

(ジャーナリスト、NPO法人KHJ全国ひきこもり家族会連合会広報担当理事)

通信社などの勤務を経てジャーナリスト。20数年にわたって「ひきこもり」関係の取材を続け、ひきこもる本人や家族の相談も受けてきた。「ひきこもりフューチャーセッション庵-IORI-」の設立メンバー。NHK「クローズアップ現代+」「あさイチ」などテレビやラジオにも多数出演。NHKドラマ「こもりびと」や「星とレモンの部屋」などの監修も務める。著書に『ルポ「8050問題」高齢親子「ひきこもり死」の現場から』(河出書房新社)など多数。

勝部麗子 (かつべ れいこ)

(社会福祉法人豊中市社会福祉協議会福祉推進室長)

1987年に入職以来、小地域福祉ネットワーク活動など、地域組織化や地域福祉活動計画に携わる。大阪府地域福祉支援計画のコミュニティソーシャルワーカー (CSW)の一期生。現在は、制度の狭間にある課題を解決するプロジェクトの立ち上げなどに取り組んでいる。厚生労働省社会保障審議会「生活困窮者の生活支援の在り方に関する特別部会」委員などを歴任。NHKドラマ10「サイレント・プア」のモデルであり、監修も務めた。NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」にも出演。

【講座①】

山本耕平 (やまもと こうへい)

(佛教大学社会福祉学部教授、一般社団法人若者協同実践全国フォーラム共同代表)

専門は福祉臨床論、精神保健福祉論。ひきこもりや若者の問題を福祉臨床の角度から捉える。著書に『ひきこもりソーシャルワーカー生きる場と関係の創出-』(かもがわ出版)などがある。論文に「社会・経済的構造の問題としての『ひきこもり』と『支援』の課題」(鉄道弘済会、『社会福祉研究』第140号)など、若者ソーシャルワークに関するものがある。

生水裕美 (しょうず ひろみ)

(野洲市市民部次長)

1999年から野洲町(2004年合併により野洲市)の消費生活専門相談員(2008年より、正規職員)。2011年、内閣府の「社会保障改革に関する集中検討会議」に一般委員として出席。その後も、厚生労働省の各種事業の委員等を歴任し、2017年5月から社会保障審議会(生活困窮者自立支援及び生活保護部会)委員。一般社団法人生活困窮者自立支援全国ネットワーク理事。編著に、『生活再建型滞納整理の実務』(共編著、ぎょうせい、2013年)。

安西慶高 (あんざい よしたか)

(厚生労働省社会・援護局地域福祉課課長補佐)

1998年、厚生労働省(当時、厚生省国立伊東重度障害者センター)入省。翌年、本省に異動し、社会・援護局、大臣官房人事課、大臣官房総務課、老健局で勤務。通算では、生活保護業務が一番長く従事。2019年4月から現職。現在は、ひきこもり支援や就職氷河期世代支援を中心に取り組んでいる。

【講座②】

朝比奈ミカ (あさひな みか)

(中核地域生活支援センターがじゅまるセンター長、市川市生活サポートセンターそら主任相談支援員)

大学卒業後、東京都社会福祉協議会に就職。高齢者の就労・生活相談業務を経て、福祉全般にわたる調査研究、広報啓発、研修企画業務などに従事。2004年から千葉県が設置した包括的相談支援事業「中核地域生活支援センター」の1つ、「がじゅまる」の創設に携わり、対象を限定しない相談活動の実践に仲間とともに手探りで取り組む。2015年から市川市生活困窮者自立相談支援事業「市川市生活サポートセンターそら」主任相談支援員を兼務。

青木洋之 (あおき ひろゆき)

(NPO法人にいがた若者自立支援ネットワーク・伴走舎理事兼事務局長) 群馬大学工学部卒業後、新潟にて就職したが、数年で退職し、ひきこもり生活を送る。ふとした出会いにより、奮起して起業。その中で共鳴した若者が集まり、若者支援の活動を始める。2009年伴走舎の設立と同時に、困難を抱えた若者が高齢者を支え、地域を活性化させる施設をつくる。2015年地域活動支援センターⅢ型開設、施設長就任。現在に至る。

小出直文 (こいで なおふみ)

(沼垂ビール株式会社ブルワリーマネージャー、NPO法人にいがた若者自立支援ネットワーク・伴走舎非常勤、ひきこもり経験者)

1985年新潟県生まれ。20代でひきこもり生活になる。医療機関や支援機関勤務を経て2014年、伴走舎で活動を始める。さまざまな経験を積み、2016年からは沼垂ビール株式会社にて就労。醸造や販売に従事している。依頼があれば、ひきこもり経験者としてセミナーなどに参加。当時のことを回顧し、言葉にすることで何らかの助けになればと考えている。

宮田 隼 (みやた じゅん)

(コミュニティハウスひとのま代表)

1983年生まれ。日本福祉大学情報社会科学部(現、健康科学部)卒業後、教育関連企業に就職。そこで不登校やひきこもりの問題に直面し、その課題に取り組むため学習塾「寺子屋みやた」を創業。翌年、誰もが集える「コミュニティハウスひとのま」を開設し、ひきこもりや貧困など生きづらさを抱える人たちと繋がって生きている。

ひんく

(ひきこもり経験者)

1999年生まれ。高等学校中退後、ひきこもりになる。ひきこもり期間中に精神科入院。精神科で余計に病む。退院後、「ひとのま」に繋がり今に至る。

【講座③】

山田武司 (やまだ たけし)

(岐阜協立大学経済学部教授、NPO法人まちかどサポートセンター理事長) 日本福祉大学大学院社会福祉学研究科福祉マネジメント専攻修士課程修了。精神科病院のソーシャルワーカーなどをを経て、2001年まちかどサポートセンターを関係者と設立。同年、ひきこもり・神経症グループ「この指とまれ」設置(2016年廃止)。2008年「ひきこもり・不登校家族相談会」開設。2005年より現大学所属。著書、論文に、『藪の中から一ひきこもり、不登校の当事者・親・支援者からの声-』(編著、名古屋ライオンハウス、2011年)、「ソーシャルワークの視点に立つひきこもりの方の家族への支援」(『岐阜経済大学論集』50巻2号、2017年)など。

後藤誠子 (ごとう せいこ)

(笑いのたねプロジェクト代表、不登校と若者の自立を考える北上地区父母会(竹の子会)会長)

弘前大学人文学部(現、人文社会科学部)修了。2010年、次男が不登校になり、2014年頃、社会的ひきこもり状態となる。2017年12月、ブログ「いつだって青い空」を開設。2019年1月、北上市コミュニティFM「きたかみE & Be (いいあんべ)エフエム」にてラジオ番組「一人じゃないから」を制作、放送。2019年7月、「笑いのたねプロジェクト」を創設、代表に。同年8月、月に一度開催の居場所「ワラタネスクエア」を開始(2020年8月からは週5日開所)。2020年1月、不登校と若者の自立を考える北上地区父母会会長に就任。

林 恭子 (はやし きょうこ)

(一般社団法人ひきこもりUX会議代表理事)

高等学校2年で不登校、20代半ばでひきこもりを経験する。信頼できる精神科医や同じような経験をした仲間たちと出会い、少しずつ自分を取り戻す。2012年から、「自分たちのことは自分たちで伝えよう」と“当事者発信”を開始し、イベント開催や講演、研修会の講師などの当事者活動をしている。「東京都ひきこもりに係る支援協議会」委員、「就職氷河期世代支援の推進に向けた全国プラットフォーム」議員などを歴任。

木村ナオヒロ (きむら なおひろ)

(「ひきこもり新聞」編集長、ひきこもり経験者)

司法試験を目指す過程でひきこもりに。暴力的支援団体を好意的に取り上げたマスコミに疑問をもち「ひきこもり新聞」を創刊。ひきこもりに対する理解と適切な支援情報を提供するために活動中。ひきこもり歴は通算10年。ひきこもり新聞は発行5年目をむかえた。暴力的「ひきこもり支援」施設問題を考える会共同代表。

お申し込み・お問い合わせ先

公益財団法人鉄道弘済会 「社会福祉セミナー」係

〒102-0083 東京都千代田区麹町5-1 TEL 03-5276-0325

E-mail fukushi-seminar@kousaikai.or.jp URL https://www.kousaikai.or.jp/